

広島県立吉田高等学校卒業 松長将弘さん((株)羽佐竹農場)



松長 将弘（まつなが まさひろ）さんの紹介

松長将弘さん（23歳）は、県立吉田高等学校から県立農業技術大学校を経て、平成26年4月に安芸高田市高宮町にある羽佐竹農場に就職就農しました。

同農場では、ビニルハウス6棟（総面積20アール）でチンゲンサイを栽培から収穫まで一人で受け持ち、栽培管理しています。

○松長将弘さんの就農までの道

農業高校
(吉田高等学校)

県立農業技術大学校
(野菜・花きコース野菜専攻)

就農
((株) 羽佐竹農場)

農業高校に入学しようと思ったキッカケは？ 農業を仕事にしようと思ったきっかけは？

中学生の頃から家庭菜園をやっていて、キュウリやスイカなどを育てていました。その時から野菜や植物を育てる楽しさを感じていて、農業の勉強ができる吉田高校に入学しました。

入学して農業について学ぶうちに、植物や自然を相手にする仕事をしたいという気持ちがますます強くなり、将来農業の仕事に就くための知識を進学してもっと得たいと考えるようになりました。

高校や大学校で学んだことは？

農業は、やればやっただけ成果が出ます。吉田高校では作物栽培の基礎的知識を、農業技術大学校では白ネギやホウレンソウ等の栽培を学びましたが、自分の手のかけ具合で成長の仕方が全く違ってくことを実感しました。この経験を、現在の職場で活かせるように日々、管理作業に努めています。

今の仕事の中でやりがいを感じることは？

6棟あるハウスのチンゲンサイを一人で全て管理しています。仕事を任されたことに対する責任感を感じながら、期待もされているのだと思うと、やりがいを感じます。チンゲンサイの栽培を習得したら、他の野菜にも挑戦したいと思います。



就農先の紹介

羽佐竹農場は、儲かる農業を実践するために、様々な事業に取り組んでおられます。その例として酒造好適米の生産、鉄コーティング水稻直播による作業の省力・軽量化、周年栽培による白ネギ栽培、チンゲンサイの栽培などがあります。

代表の松川秀巳氏は、若い担い手に意欲を持って農業に取り組んでもらうために、受け入れ環境の整備・充実に関心をもち、積極的に取り組まれています。